

## 課題名：イチジク産地の復活プロジェクト

指導対象：JA 紀の里イチジク部会、新規栽培者

## 1. 取組の背景

和歌山県のイチジク栽培は全国3位の栽培面積を誇り、那賀管内の栽培面積は約83haで、県全体の約80を占める地域農業の基幹作物として位置づけられている。

しかし、近年は産地の担い手不足や、生産者の高齢化に伴い、労力不足による別品目への転換や栽培面積を縮小する傾向にある。また、同一圃場で連作される事もあり、連作障害（いや地、株枯れ）による生産性の低下も産地の縮小に拍車をかけている。

そこで、出荷調整の省力化や、生産性の維持に向けた強勢台木の普及に向けた取組を行った。

## 2. 活動内容

## (1) イチジク産地振興に向けた取組

JA 紀の里イチジク部会及び営農部、振興局農業水産振興課で産地振興に向けた検討会を開催。

## (2) 強勢台木の導入

強勢台木（zidi 台）の普及に向けた関係機関と取組展開。

## (3) 新規就農者への啓発活動

新規就農者向けに、イチジク栽培講習会を開催。

## 3. 具体的な成果

## (1) イチジク産地振興に向けた取組

昨年提案した、イチジクの共同選果事業について、JA 関係者（JA 紀の里営農部、販売部、イチジク部会）と検討を行った。機械化による共同選果では、現状の生産量（JA 取扱約600t）を扱うことが前提となる等条件面が明らかとなった。これらの事を踏まえてJA 紀の里農産物流通センターで予定されている選果施設の更新時にイチジク用選果機の導入についてJA の内部委員会で更に検討を行うこととなった。

## (2) 強勢台木の導入

いや地抵抗性台木（zidi 台）及び株枯病抵抗性台木（ネグローネ台）は、営農指導員やイチジク生産者に周知されているが、zidi 台木のイチジク苗木の供給は産地の需要に追いついていなかった。本年度は苗木の注文数全て供給する事ができた。

株枯病の発生が確認された圃場に昨年度導入したネグローネ台木について、順調な生育が確認された。引き続き、抵抗性台木の生育状況の経過を観察する。



株枯病で枯死したイチジクとネグローネ台木

## (3) 新規就農者への啓発活動

アグリビギナー事業を活用し、新規就農者に向けた研修会を開催した。

JA 紀の里イチジク部会の協力のもと、座学、現地研修会を行ったところ、新規に紀の川市桃山町の農家が1名栽培を始



新規就農者に対する栽培講習会

めることとなった。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(紀の川市 Y氏)

ネグローネ台木は初期生育も安定しているように見える。薬剤処理等の対策を併用しながら、抵抗性台木に切り替え、安定生産に繋げたい。

(紀の川市 S氏)

イチジクは、新規就農者のような単位面積あたりの収益を求める人に勧めたい品目である。部会として、新規会員を増やすために新たに栽培をはじめの人への技術指導などに協力していく。

#### 5. 普及指導員のコメント(那賀振興局農業水産振興課・主査・北原伸浩)

強勢台木の zidi、株枯病耐性台木のネグローネが安定して供給されるようになり、今後、イチジクの安定生産につながるものと思われる。管内は主として zidi 台木が求められる傾向にあるが、柵井ドーフィンと比較し、生育が劣った事例も報告されており、今後は品種特性について継続した観察を行う。

新規就農者は農地の確保が困難であるため、比較的、面積あたりの収益性が高いイチジクは新規就農者に適した品目であると考えられる。今後も啓発活動を継続し、産地の維持活性に向けた支援を継続する。

#### 6. 現状・今後の展開等

- (1) 強勢台木の地域適正の把握。
- (2) イチジク栽培の普及(新規栽培者の獲得など)